

令和4年度
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和4年8月

十日町市 総務部 企画政策課

■ ご利用にあたって

- 1 図表中の「n」(number of case の略)とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
なお、性別・年齢階層別・居住地域別の数値は、それぞれの属性の無回答者を除外してあります。
- 2 数値(%)は単位未満を四捨五入していますので、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
- 3 職業別は次のように分類しました。
 - (1) 働いていない
 - (2) 正規雇用で働いている
 - (3) パートやアルバイト等、非正規雇用で働いている
 - (4) 法人の経営者・役員として働いている
 - (5) 自営業・家族従業者(商工・サービス業・自由業等)として働いている
 - (6) 自営業・家族従業者(農林漁業)として働いている
 - (7) その他
- 4 比較している県・国の調査は、県は新潟県県民生活・環境部男女平等社会推進課が令和2年8月～9月に、国は内閣府が令和元年9月に、それぞれ実施したものです。

目次

	頁
第1章 調査実施の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査の設計	1
4 回収結果	1
5 集計結果の数字の見方	1
6 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢別	2
(3) 未既婚別	3
(4) 共働きの状況別	4
(5) 子どもの有無別	5
(6) 子どもの成長段階別	6
(7) 家族構成別	7
(8) 職業別	8
第2章-1 調査結果の概要	9
《(回答者)自身のことについて》	9
《目指す社会の実現について》	9
《男女の平等について》	10
《家庭・地域・人生観などについて》	11
《男女の職業に対する考え方について》	12
《男女の人権について》	13
《法制度・用語などについて》	14
《男女共同参画についての自由意見》	15
第2章-2 調査結果の詳細	17
1 目指す社会の実現について	17
2 男女の平等について	20
(1) 全領域の比較	20
(2) 家庭の中での平等感	23
(3) 職場の中での平等感	26
(4) 社会慣習(しきたり)の中での平等感	29
(5) 法律や制度の面での平等感	32
(6) 政治経済活動の場での平等感	35
(7) 学校教育の場での平等感	38
(8) 地域社会の中での平等感	41
(9) 社会全体の地位の平等感	44

	頁
3 家庭・地域・人生観などについて	47
(1) 家庭に対する考え方の比較	47
(2) 『男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである』への是非	49
(3) 『男性も女性も平等に家事・育児をすべきである』への是非	52
(4) 『子どもが小さいうちは母親が子育てに専念すべきである』への是非	55
(5) 『女性は仕事を持つのは良いが、家事や育児、介護を優先できる範囲がいい』への是非	58
(6) 家庭での家事等担当の比較	61
(7) 家事（食事のしたく、掃除、洗濯等）の担当	62
(8) 育児の担当	65
(9) 介護の担当	68
(10) 地域活動の担当	71
(11) 仕事と家庭生活や地域活動についての考え方	74
(12) 男女がともに仕事や家庭生活、地域活動に積極的に参加するために必要なこと	80
(13) 地域団体の会長などの役員に女性が少ない理由	84
(14) 地域団体の役員や方針決定の場に出ることについての考え方	87
4 男女の職業に対する考え方について	90
(1) 女性の社会参加を進めていく必要があるか	90
(2) 働き方の理想	93
(3) 働き方の現実	96
(4) 男女が働き続けるために必要なこと	100
5 男女の人権について	110
(1) ドメスティック・バイオレンスの被害経験の有無と内容（全4項目の比較）	110
(2) 『身体的暴行』の経験の有無	112
(3) 『精神的暴力』の経験の有無	115
(4) 『性的暴力』の経験の有無	118
(5) 『経済的暴力』の経験の有無	121
(6) ドメスティック・バイオレンスに関する相談相手	124
(7) 相談しなかった理由	127
6 法制度・用語などについて	130
(1) 男女共同参画社会の法律や用語の認知度（全11項目の比較）	130
(2) 『男女共同参画社会基本法』の認知度	133
(3) 『男女雇用機会均等法』の認知度	136
(4) 『育児・介護休業法』の認知度	139
(5) 『とおかまち男女平等みらいプラン』の認知度	142
(6) 『男女共同参画社会』の認知度	145
(7) 『ジェンダー』の認知度	148
(8) 『LGBT・性的少数者』の認知度	151
(9) 『ドメスティック・バイオレンス』の認知度	154

	頁
(10) 『ワーク・ライフ・バランス』の認知度	157
(11) 『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』の認知度	160
(12) 『ハッピー・パートナー企業』の認知度	163
(13) 人口減少対策、特に若い世代の都心部への流出を防ぐために必要なこと	166
(14) 新型コロナウイルスの影響により経済的に変化したこと	182
(15) 男女共同参画社会の実現のために市が力を入れるべきこと	189
7 男女共同参画についての自由意見	192

(付) 調査白票